

🌸がんと遺伝

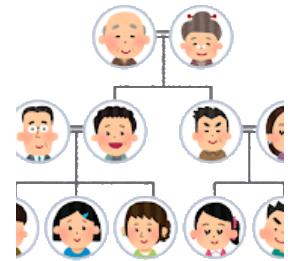
がんは、おもに「環境要因」と「遺伝要因」によって遺伝子が傷つくことで発生するといわれます。

『環境要因』には、食生活・喫煙・飲酒などの生活習慣やホルモンやウイルス感染などがあります。

『遺伝要因』とは、生まれたときから、がんの発生と強く関わる遺伝子に変化（病的バリエーションや病的変異といいます）を持っている場合を指します。

この遺伝子の変化に環境要因が加わり発生するのが、遺伝的ながん＝遺伝性腫瘍になります。遺伝性腫瘍は、全てのがんの約5%といわれています。

また、遺伝性腫瘍の原因となる先天性の病的バリエーションの多くは、50%の確率で次の世代に受け継がれます。



🌸遺伝性乳がん卵巣がん症候群とは

（**HBOC : Hereditary Breast and Ovarian Cancer syndrome**）

HBOCは、遺伝性腫瘍の1つです。BRCA1とBRCA2とよばれる、がんの発生を抑制する遺伝子に、生まれたときから病的バリエーションを認め、乳がんや卵巣がんを発症する可能性が高くなります。その他、前立腺癌や膵臓癌の発症リスクも高くなるといわれています。

🌸BRCA1/2遺伝子検査

血液中の白血球の遺伝子を使って、BRCA1/2遺伝子の病的バリエーションの有無を調べる検査です。卵巣癌にかかれた方では、約15%の方がBRCA1/2遺伝子に病的バリエーションを認めるといわれています。

2020年4月から、卵巣癌にかかったことがある方に対するBRCA1/2遺伝子検査が保険診療になりました。

遺伝に関わる検査になりますので、検査を行う前には『遺伝カウンセリング』でよく相談することをお奨めします。



後のページは、検査前から検査後までのながれになります。

『一般社団法人日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療制度機構』のHP（<https://johboc.jp>）からHBOCのパンフレットがダウンロードできますので、ご覧ください。

遺伝性乳がん卵巣がんの診療のながれ

遺伝カウンセリングや
遺伝子検査を
希望されたら

- ・診療の担当医に伝えてください。
- ・担当医が、プレカウンセリングと遺伝カウンセリングの日程を調整します。
- ・プレカウンセリングは、当日行うこともあります。

カウンセリングのみご希望の場合も大丈夫です。

プレカウンセリング
(家系図作成)

- ・診療の担当医もしくは遺伝カウンセラーが、遺伝カウンセリングに必要な情報（家族構成・家系におけるがんなどの病気のこと）をお聞きします。
- ・その情報をもとに、家系図を作成します。

遺伝カウンセリング

- ・遺伝カウンセリングの担当医もしくは遺伝カウンセラーが、HBOCについて、原因・検査・発症リスク・予防や検診の方法などについてお話しします。
- ・HBOCに関して、ご自身が知りたいこと、気になることや心配なことを話し合います。
- ・卵巣がんにかかったことがある方は、カウンセリングの費用も保険診療になります。

検査の実施

- ・カウンセリングの結果、検査を希望された方に行います。
- ・状況に合わせて、検査はカウンセリングの当日または後日に行います。
- ・血液で検査しますので、採血（約7ml）を行います。

遺伝カウンセリング
(結果開示)

- ・検査結果をお知らせします。
- ・結果に応じて、今後の予防や検診の方法などについてお話しします。
- ・ご家族のリスクについても相談します。

ご家族が個別に相談をご希望された場合にも、遺伝カウンセリングを受けることができます。乳がんや卵巣がんにかかられたことがない方は、遺伝カウンセリングや検査は自費になります。

ご質問などがございましたら、ご遠慮なくおたずねください。

【お問い合わせ先】

高知大学医学部附属病院 産科婦人科 泉谷知明・牛若昂志・氏原悠介・松浦拓也
同臨床遺伝診療部 認定遺伝カウンセラー 田代真理

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮185-1

TEL：088-866-5811